

の、無理が祟ってお腹の痛みに耐え切れず、身も心も疲れ果て、故郷に帰って自殺を決意しました。

上野駅で、発車のベルの音を聞きつつ、夜行列車に飛乗りました。車内は満員、漸く見つけた一つだけの席、ホッとして腰掛けました。が、又もや激痛にお腹を抱えて苦しんで居りました。その時隣のおばさんが見兼ねたように語りかけて下さいました。後で考えますとその人こそ神のみ使いだったように思います。

秋南病院を。だまされたつもりで行ってみなさい。と丁寧に地図を書いて下さいました。

その生命の恩人を入院中随分探しましたが誰一人判りませんでした。

秋田原なんて初めてです。折角親切に教えて下さった人、薬をも掴む思いで次の日早朝入院準備を整えて横手駅で乗換え、浅舞秋南病院に到着しました。

ドクターの診察の結果、胃潰瘍と脾臓と判明、尚断層写真幾枚もで確かめ、間違いなし。(当時東北に三台しかないレントゲン機械)

即入院治療しました。日一日と快復し一ヶ月余り過ぎた頃、院長先生が朝九時から十五分間聖書のお話をして下さいました。日一日と快復し一ヶ月余り過ぎた頃、院長先生が朝九時から十五分間聖書のお話をして下さいました。が、

或る時病院の廊下を散歩していますと、一寸雨洩りがしています。立止って見えていますと、後から品の良いお声で、「ああ直ぐ修繕させますから」と腰を低くして一礼なさって去られたおじいさん、その後姿の神々しさにびつくり。光を放っているではありませんか……。

友達と「あのお方は徒者ではないね。丹前姿ですから患者さんのようでもあり、」と不思議に語り合っていました。

それから一週間位して、いつもの朝礼に出ましたら、そのお方が院長先生の代りをして下さいました。ああやっぱりと納得。

キリストの福音を宣べ伝えて下さる、その尊い一言一言に、すっかり心ひかれ、毎朝の説教が待ち遠しく、すっかりキリストの虜^もになってしまったのです。

その方は秋南教会牧師で瀬谷重治先生。横手を中心に十ヶ所に教会を持ち、昔は長靴伝道師で有名で現在迄千人も

の方を救われたとの事。病院は聖霊が夢に現われて告げられたそうで、聖霊の導きで実現なさったのだそうです。

牧師はその頃顔面神経痛で御入院なさっていたのです。

あのような片田舎に土着し、神に仕え、隣人を愛し心身共に癒して下さる、牧師さん、院長先生、看護婦さん方のクリスチャンならではの献身的態度に頭の下がる想いに感謝の連続でした。

私はこの世的な存在に、又、身も心も疲れ果ててしまいました矢先にこのような病院に導かれ心底から平安に満たされ前途に希望が与えられたのでございます。

瀬谷牧師は病んでいる身をもいとわず私の為に毎夜一時間ずつ特別聖書勉強を続けて下さいました。私にとって一大決心です。

再婚先に手紙を書きました。「私は洗礼を受けて、クリスチャンになりたい。もし同意して下さいさなかつたら私を離婚して下さい。このままでは生きて行く勇気がありません。」旨を。

早速返事が来ました。「お前がそれで幸福になれるんなら離婚はしなくても受洗許可を」天にも昇る心地でした。

昭和四十二年三月、退院二日前、病院の前の秋南浅舞教会で夜洗礼式を受けることになりました。私の実家のお嫁さんが、一日がかりで雪の中を駆けつけて下さり、神に救われし喜びを分かち合ってくださいました。

洗礼式の夜明け方、私は夢をみました。

果てしない空一面羊の群で一杯です。そこに一人の天女が美しい羽衣を着て舞っているではありませんか。それは素晴らしく平安そのものの世界でした。今もまざまざと脳裏から離れません。

洗礼式、大勢の兄弟の励ましの下に、讃美歌百十九番、「わが君イエスよ罪の身は、暗き旅路に迷いしを」と、私にぴったりの讃美歌に終生忘れる事の出来ない感謝感激でございました。

とるに足らない私のような罪人を神様は全部お見通しの上この時を選んで下さり新しい生命を頂き、心身共に癒されまして、やがて退院。

玄関で看護婦さんはじめ患者さんが一斉に讃美歌四百五番「神共に居まして往く道を護り……又逢う日まで神の護り